

気持ちのオンオフを切り替える室内ドアの提案

A Proposal for an Interior Door to Help People Switch Between “On” and “Off” Mode



スイッチングドア



自宅でも仕事のしやすい空間へ

働く場所の多様化で、家と仕事の境目が曖昧になってきている。「くつろぐための家では仕事のオンオフの切り替えがしづらい」住宅のあり方が変化する中で生まれるこの問題を解決すべく、自宅でも仕事がしやすい空間を探索した。気持ちのオンオフをしっかり整え、仕事とプライベートをつなぐ室内ドアの提案。

Striving for a Productive Workspace at Home

As workspaces grow more diverse, boundaries between private homes and workplaces become increasingly ambiguous. In my work, I explore what constitutes a productive home office space while tackling issues arising from the new reality of working from home – a difficulty of switching between “on” and “off” work modes. My proposal is an interior door that enables a seamless yet distinct transition between work and private life. With this product, I aim to create a clear boundary between emotional “on” and “off” modes and help people make the most of both.



01 closet door

行為によるスイッチング / off から on へ

仕事部屋に入る前にすばやく仕事服に着替え、備え付けの鏡で身だしなみも気持ちも整えるドア。ドアから突起したパーツに服が収納でき、ドアの取手としても機能。「外に出ないから適当でいいや」そんな行動が家での仕事のモチベーションを下けていることもある。身だしなみを整えることは、人からの印象をよくするだけではなく、自分自身の心も整えることができる。



ドアに仕事服をかけておく



身嗜みも心も整える

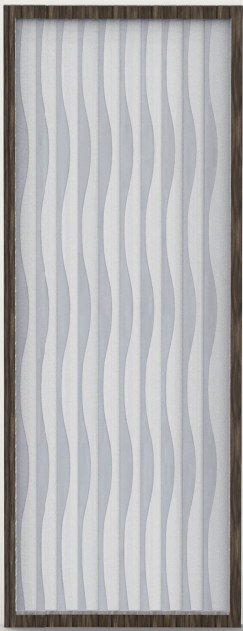


心のスイッチングをオンに

02 blind door

空間・感覚によるスイッチング / on から off へ

つつい長引いてしまいがちな在宅での仕事を、緩やかにリラックスした気持ちへと変化させるドア。仕事が終わると、ブラインドの羽部分が開き家族のいる空間と繋がることで仕事の気持ちを緩やかに変えていく。部屋に入ってくるリビングの光や風、家族の声など、生活の暖かさが緩やかにつながり気持ちを満たしていくことのできるドア。



工作中



仕事後